

お助け観音（上野田町）

昔、たいそう風の吹き荒れた晩に、府中（武生）で大火事がありました。

翌朝、藤田家のおじいさんが庭に出て見ると、首から上だけの観音様の顔が落ちていました。

「これはもっていいい（ありがたい）こつちや。

きんの（きのう）の大火事で吹っ飛んできなはったにちげえねい（違いない）。南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏」

と家の中へ持って入りました。そして早速、庄屋



さんへ相談に行き、近江（滋賀県）の有名な仏師に頼んで、首から下の仏像を造ってもらいました。それからというものは、子供が二階から落ちても、かすり傷一つせずに助かったり、大けがをするはずなのに、軽いけがですんだり、不思議なことが沢山ありました。その後

「このお観音さんは、あらたかな観音さんでなあ。おじじの、そのまたおじじの、そのまたおじじの、いつ頃かはよう（よく）わからんが、大昔から大難を小難で守っておくんはなる、ありがたいお観音さんや。お助け観音さんや。」
と言い伝えられて、藤田家で大切にお祭りされてきました。

今から約七十年前（大正十一年）に、藤田家の隣の百姓小屋で無断で泊ったこじきのタバコの火の不始末から、上野田町、下野田町合わせて二十六件が焼失する大火事がありました。

そのとき、周りの家は全部焼けてしまったのに、



藤田家ただ一軒焼け残りました。

壁も、したみも煙で真っ黒になってしまい、

「もう、あかん（駄目）。うちが燃えてまう。」

と観念したときに、突然、風向きが変わってしま

いました。

火事見舞いに遠くから来た人たちが、

「おい。火事はこちらで止まったぞ。」

と言いながら、藤田家の近くまで来ると、

「なーんじゃ。一軒だけ焼け残ったんか、後ろが

ずつつと丸焼けやぞ、えらいこつちや。」

と大さわぎになったそうです。

お助け観音様のお力でしようか。上野田町の藤

田家に昔から伝わる話です。

注 こじき

昔は、住む家がなく、お金や食べ物の人から恵んでもらって生活をする気の毒な人がいました。

この人達をこじきと呼びました。